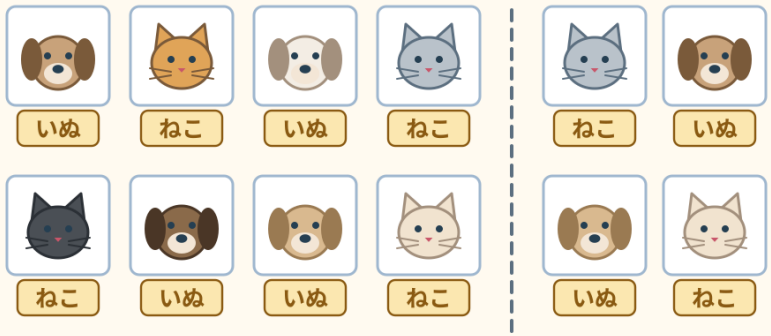
教師あり学習（正解つきの例から学ぶ）

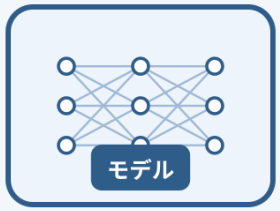
AIは、正解の付いた例から、どのようにして見分け方を学ぶのだろう

1 正解（ラベル）を付けた例を集める



訓練データ（学習に使う）　テストデータ

2 学習



訓練データだけを使い、
予測と正解の差が小さく
なるように、中の数を調整

3 テストで確かめる

学習に使っていないデータで
答えさせ、正解と比べる

	AIの答え	正解	
	ねこ	ねこ	○
	いぬ	いぬ	○
	ねこ	いぬ	✕
	ねこ	ねこ	○

正解率 75%（4枚中3枚。架空）

4 使う



新しい画像（正解なし）

→ AI 学習済みモデル →

答え：ねこ
確からしさ 88%（架空）

答えには確からしさが
あり、まちがえることもある

知っておこう

正解（ラベル）は、人が付けることが多い。
付け方がまちがっていると、
AIもまちがって学ぶ

訓練データにだけよく当たっても、新しい
データで当たるとは限らない（過剰適合）。
だから、テストデータで確かめる

正解を付けずに、似たもの同士を
グループに分ける学び方もある
（教師なし学習）

※ 模式図。画像の枚数・正解率・確からしさは架空。